

しじがわ

吹川青年建設班特集

1958.1.20

私たちの生活

班長 松本金次郎
私達の村に建設班が設置され第一期生として私達は学んでいる。現在約一カ月を終えた。その間班員各自の態度は真剣に此の班活動に取組んで来た。吾々農民が少しでも進んだ方向に進歩して行くために勉強させてやろうと言う親心に深く感じ自分達の生活の中に実現させようと努力している。

最初此の建設班に対して大きな誤解をした一部の人間が悪評を飛ばして私たちが若い者の心をゆるがせたが、私達は此のグループが郷土発展の研究団体であることを信じ活動している。規律正しい感じの良い明るい生活、皆んなで揃って御飯を食べる、直接生活と関連する学習、その他皆んなで話し合うこの時など生活を共にする事の数々の楽しさは又格別の良さがある。一つかまの飯を食い一つ屋根の下に生活して養った共同精神は今後社会に出てからも共に助け合つて発展を見る事の出来る明るい団体として進むであろう。

此の班も今では班員相互の意志も知り合う事が出来一段と充実して来た。充実せる班組織も出来上り年も新たに若い希望は燃えている。此の班員達は各自が社会に持つて帰る土産はより一層大きなものがあるだろう。周囲の人達は大きな期待を掛け重大視している。私達の任務は大きい。その中にある私達は少しのひまも無駄に過ごしてはいけない、一つでも発展せる事を学ぼうとして努力している。

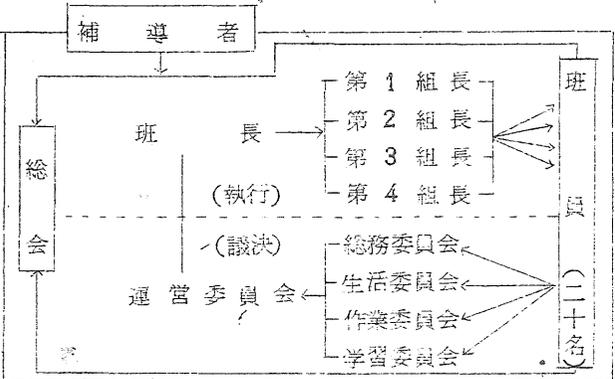
勤労と勤勉、そして理屈だけでなく実践に移して行こうと言う大きな目的をかかげて若人達は努力して居ります。

建設班の運営

総務委員会 上田博重
農林省の農村漁村青年実践活動促進要綱に基き吹川青年建設班が十二月五日結成された。目的は新農村建設に対する知識及び技術の習得と共同

生活を通じ健全な生活態度及び自治能力を養うと共に規律ある団体生活を行うと言うものである。我々の生活の総ては昼は勤労に従事し勤労精神を養い、夜は学習で新農村建設に對して必要な知識又は技術を各方面の権威者に学ぶことを基本とするものである。班活動は全員で組織された各委員会、各委員長で組織する運営委員会及び総会で各問題を討議し規律ある生活を作り実践して行くわけである。とは言い一日の日程は六時起床より十一時の消灯迄ぎりぎり詰つていて自由時間を生み出すのに委員会は苦勞する位だ。従つて多少の不平等が生じて来る。然しながら我々の目的とするものを貫徹しうるためにこの困難を突破して本當の村造りの中堅者として恥かしくない活動が出来うる知識と勤労精神を養うため日夜努力している次第である。

第一回の催しなので趣旨の徹底が完全に行かず多少の困難はあつたが我々は第二三期の模範とすべく内容の充実をはかり皆さんの期待にそうよう毎日を努力しておる次第です。



各委員会の任務
一、総務委員会
一、班日誌の記帳 二、其他

各委員会に属していない事項
一、生活委員会
一、食事に關する事 二、生活に關する事項
一、作業委員会
一、作業計画に關する事 二、出役簿記入 三、道具の点検
一、学習委員会
一、学習計画に關する事 二、学習の準備 三、学習参考のプリン

一、日番の任務
一、日番日誌の記帳 二、宿舎・食堂の整理整頓 三、時間の合図
注 日番は各組毎に一日交替で行なう。

農建班の学習

学習委員会 安川武志
「オラ、はコガイな枝を切つてしまよつたんじやけん」
「ハイ六米三十銭」
こう書くとなにを書いているか分りませんが、ある日の我々の学習のひとコマです。

農建班設立にあつてはとやかくいわれさわがれつゝも充足した学習機運だが、私も最初は一寸不安もあつたが今となつては入班してよかつたと思う。たゞぼくぜんとよかつたでなく毎日の学習の中からそして作業の中からひとつひとつひるひ上げてもかつて団体生活を味わつた事のない私にとつてはプラス面の方がはるかに勝つていふように思う。実習からひろい上げてみても、此の枝は切り捨てたらいけんのだといつたあんばい、それによつて二年に一回しか果実しないものであるときめている年寄的な古い考えから一歩前進し科学的に毎年みものらしてゆくという風に、側面実習でもこの畑は昔から「オカミタンベツが五反じやけん一寸実反別はたらんかも知れんが書きたさんといけまい」といつた場合「OKです。その為平板側置が役にたちます」といつたあんばい。

米麦はいうにおよばず果樹でも疎菜でも毎月新しい技術での作り方に変つていふ。その技術が一から十まで良いとはいへまいがその技術をもとに我々が共に研究し合つてもつともつと新しい技術を生み出して行く時こそ本當の意味での新しい村作りとなる事を確信するものです。そこに私達の共同合宿、学習の意義があります。すなわち建設班を通じて新しい村造りも至難ではないと思う。

一ある六回も落第の肩書をもつ学

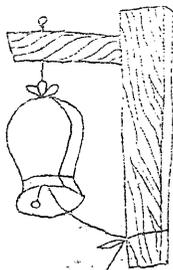
生にその友人がいつた。「貴君は何故卒業しないんだ」。その落第生は平然と答えた。「君には同級生は二百人しかないだろう俺は毎年二百人づゝでも今年で千二百人の同級生をもつたわけだ今に君よりえらい人間になるかもしれん」……とその話と私達の合宿を一語にする事も出来まいが、入班後の私には新しい同級生として、大谷にも予子林にも鹿の川、小蔵にも出来た事になる。その同級生の下に第二第三回の同級生が出来やがては吹川村全体の同級生が一体となつて活動する時にこそ理想の吹川村が出来上るのだ。まづそのためには第一回の建設班からと皆んな一生懸命に頑張つていふ所です。

班員氏名

- 班長 松本金次郎 二年 委員会
副班長 森 繁二
第一組長 上田 博重 二〇総務長
富永 勲 一九学習
稲田 清男 一七作業
山下 道教 一六生活
第二組長 富永 武治 二一生活長
尾下鉄太郎 一六総務
岡本完一郎 一九学習
崎野 和光 一六作業
藤原茂鎖夫 一九総務
第三組長 台本 治雄 二〇作業長
上野 正二〇生活
河野 健二二〇総務
高倉 政徳 二一学習
山本 弘美 一七學習
第四組長 安川 武志 二四學習長
中田 勇男 一九作業
稲田 孝明 一九總務
小川 茂記 一六生活

十二月の作業

作業委員会 台本治雄
十二月は非常に天候に恵まれて、作業予定日は全部作業を行うことが出来たが、途中一週間余り県の研修会に参加したため平均作業日数は八日であつた。労賃は班員の意見を聞いて後に無記名投票に於て十二月分は業者の決られた個人給とした。作業参加者十八名で労賃平均は一人三百二十四円余りであつた。作業は主に県道長浜奈良のへ線道路の初取作業に従事作業中の事故はなく態度、能率は各組共先づ良好。



新春を迎えて

新しい春が訪れた。新たな注意のもとに新しく踏み出さねばならない時期であると思う。それが新しい村造りの事業である。その第一歩として昨年十二月五日本県で四番目に結成された肱川青年建設班も二カ月の修業期間の約半分が終了した。その間いろいろと難しい問題等によつかりながらも班員の一致協力によつて今日迄共同の生活を造りて学習に作業に練磨を重ねて来たのである。

新しい村造りは先づ人造りからということでは建設班に参加しその上に県の第一回青年研修会に迄臨んでいゝ人間に成る様日夜努力しているのである。県の青年研修会に参加した事は私達に新しい村造りの意欲をいやが上にも盛り上げさせたのである。県下各地より沢山の人が参加して熱心に講義を聞き活潑な質疑応答に五日間を生活に学習にと全精神に打ち込んだのである。

こうした一カ月間何か身についたものがある筈である。それは眼にみえない何ものかである。その身についたものは何かといわれた時私達は「これがそうだ」とはつきり示すことは出来ないだろう。けれども今後の人生の上には何かしらプラスになる事を身につけていること、固く信ずるものである。そうして今後共同生活を通じて学習に作業にと一致協力することによつてこれから農村を背負つて立つ源動力となるものと思ふ。そしてこれは私達建設班員だけでなく村民が一丸となつて新しい村造りに乗り出さねばならない時期なのである。私達は今後も一致協力して共同生活を造りて進歩する覚悟である。

どうか村民各位の温い御声援と御協力を心から御願ひする次第です。建設班は此だけでなく第二期第三期と継続されるのであるから是非共一人でも多く参加して新しい村造りの源泉となつて活躍すべき新しい段階に来ているのである。さあ一致協力して頑張ろう。

村民の皆さんどうかよろしく御願ひ致します。

森 繁

中島・上浦建設班との交流

去る十二月の県中堅青年研修会ではからず中島町、上浦村の両建設班員と合宿の機会に恵まれ一同大喜び、ほとんど深夜まで班の運営、地方のお土産話に花が咲き、将来大いに頑張ろうと堅い握手を交して帰つて来た。

総務委員会

つらいが楽しい、私たちの生活

外はまだ暗い、寒そうな木枯らしきりに窓ガラスをたたく。六時全員起床まだ星のみえる校庭で朝の体操から一日の日課が始まり夜の学習迄自由時間がほとんどない。私が建設班に参加してから一カ月余りになった。青年建設班を村から進められ始めは入る気はなかつた程でしたが今考えれば良かったと思ふ。作業が終り夜の学習も私達に直接関係のある講義だけに誰ともなく真剣な態度になります。農業は年々近代化されつゝあるが工業商業等と比べると格別の差がある。こゝらに農村の若人が農村を捨て、都会にあこがれる訳があるのではないかと思ひます。私達若人は郷土の建設を真剣に考えなければならぬ時期に直面した事と適切に感じます。私達は青年建設班に参加して一つ屋根の下で生活し一つかまの飯を食つて生活すれば只の他人とは思はれぬ程の学校生活で得られないものを得る事が出来る。来そうな気がする。一般の人々の誤解を受けないよう努め共同精神を養いたいと思つてゐる。

福田孝明

建設班に入班して

私が建設班に入班して一カ月余りの共同生活を造りて感じたことを記したいと思ひます。共同生活に於て労働を通じて学習をする。これが建設班設立の主眼である。参加に當つては、はたして昼間の労働と夜の学習を両立することが出来るかと非常に不安も多かつたが、現在までの共同生活を振り返りかえつて見ると、夜の学習に於て時には昼間の労働の疲労のためにはねむりが全身をおもうこともあつたが講師も身近な問題が多いのと各講師のユーモアを混えた講義内容にねむりを吹き飛ばして笑いと変ることもあり新しい農村(村造り)に対する考えを自分

自身が意識して現在の農村はこれで良いのかと言う疑問が生ずることが非常に多くある。今までの講義は総合的に考へて現在の農村を見た時、昔から農業は国の大本なりと言われ、農業の重要性は説かれていながらも、その従事者に対する国家の待遇は昔も今も大差なく常に文明の下積としてしいたげられてゐるのが現状である。例えば充も需要の多い国民の主食にしても造つた我々が自分の利益を見てこれを販売することは許されないのである。国営の鉄道にしても、煙草にしても国自体が相当の利益を見て経営をしてゐるのを見る時、こゝに私は納得の出来ない矛盾を感じた。

農村問題に対して人々は封建的だとか、専制だとか時代の制度を批判しますがなぜ一歩掘りさげて農民の無自覚だつたことを反省しないのだからか。私は土に生きる農村青年の一人として農村の自主性の確立と農民の自覚をうながされた次第であります。

私にとつて合宿生活は初めてありますが今日まで十三年の学校生活と社会に出てから二年余りを通じて班の合宿生活は農村青年の教育向上の指導の場として最適であると思ふと共に非常に意義深い合宿生活であると思ふ。郷土を建設する青年として私は「物事に於ては結果よりはその過程が大切である」と言う言葉をもつとくに残りの建設班生活に意欲深い生活をするために努力すると共に新たな希望と決意を持って、新しい村造りの等火線となることをちかう次第である。

何か一つ村の進歩になることをしとけて死ねば幸せと思ふ

三組 台本治雄

目に見えない収穫

私が青年建設班に入つて早くも一カ月が過ぎた。自分が如何に向上したか又退格したかは分からない。けれども次のようなことは明らかにプラスになつたと思つてゐる。一日二十四時間が大切な財産であり、これを入班前は何と無駄に消費してゐたものだろうと言ふことである。ぎつしり込まれた日課を制限された時間内でやることは自分のように

でたために生活してゐた者にとつて容易でなかつた。それから共同で生活をしてゐると、自分の狭い考え方が広く余裕を持つて来たように思ふ。毎日じめじめした暗い気持ちになつたことは一段もなく笑いはいつも消えたことがない。一週間で五日は作業であるがそれによつて得た報酬で食事を支払い日用品を買ふと本当に自活してゐる気になつて来る。講義を聞く度に思うことであるが百姓をするには相当鋭い見識しを必要とするように思ふ。

最後に私は、解散するまで元気で一生懸命頑張る覚悟でゐる

一組 富永 勲

生活日課表

生活委員会、富永武治班が結成された当時は参加者が少なく期待はずれの感じがしたが人員の増加と共に活気ある生活が出来共同生活の楽しさ又つらさが味わえる様に成つた。班の活動は次に示す日課表を基に生活して居ます。

〇作業	
起床及び清掃	六時
国旗掲揚	六時五十分
体操点検・洗面	六時半
朝食	七時
宿舎出発	七時半
作業開始	七時半
昼食	正午
作業終了	五時
帰舎	五時半
整理体操	六時
夕食	六時半
夜の学習	六時半—八時
入浴	八時半
消灯	十一時
〇学習日	
起床	六時
国旗掲揚	六時十五分
体操点検・洗面	六時半
朝食	八時半
午前中の学習	正午
昼食	一時
午後の学習	三時半
スポーツ	六時
夕食	六時半
夜の学習	八時半
座談会	八時半
点検・消灯	十一時

早く新聞を発行して、と思つていましたが正直なところでは、日課の合宿合宿を利用して書いておきます。御意見等お寄せ頂ければ幸いです。尚皆さんからの御援助に厚く御礼申し上げます。